

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372400248		
法人名	医療法人 宏友会		
事業所名	グループホーム元気村 1ユニット		
所在地	半田市南大矢知町2-42-13		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和4年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2372400248-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和3年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな丘陵地帯にあり大きな窓からは日差しが降り注ぎ施設内全体が明るい。長く勤めているベテラン職員が多く認知症の方への対応は焦らずゆっくりを心がけ一人一人の利用者様の能力を引き出すようにかかわっている。管理者が看護師ということもありご家族が希望されれば見取りまでの対応も行っている。健康面への対応も母体である医療法人と連携して安心感につながっている。コロナ下でなかなか外部のボランティアがこれなかったり外出もままならない中職員が工夫し楽しい時間の提供に努めている。おやつ作りも利用者とともに盛んに行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内は両ユニットが平面でつながっている利点を活かしながら、利用者がフロア内を自由に移動ができるような生活環境がつけられている。感染症問題が続いていることで利用者の外出が困難になっている状況の中で、ホーム内を歩きながら歩行訓練が行われており、利用者の身体機能の維持にもつなげている。ホームの日常生活に関する支援として様々なレクリエーションが行われており、利用者の生活が単調にならないような取り組みも行われている。また、運営母体が医療機関であることで、医療面での支援も行われており、利用者の健康状態等に合わせた柔軟な対応が行われている。また、利用者の看取り支援も行われており、複数の利用者が当ホームで最期を迎える支援が行われており、利用者及び家族が、ホームで安心して最期まで過ごすことができる支援体制がつけられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員で話し合い年度目標を立案。目につくところに掲示し常に意識できるようにしている。	運営法人の基本理念をホームの支援の基本に考えているが、ホームでも独自の理念がつけられている。理念には、利用者がホームでゆったりと自由にのんびりと過ごすことが掲げられてあり、日所の支援を通じて理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域主体の協議会に参加し地域の方に施設の状況や取り巻く環境について折に触れ話をしている。定期的に開催する運営推進会議には民生委員に声をかけている。	当ホームの移転後に感染症問題が起きたことで、地域の方との交流が中断している状況が続いている。地域の方が集まる会には、ホームからも管理者も参加しており、相互の交流の機会につなげている。	地域の方との交流が中断している状況でもあるため、今後の感染症の状況もみながら、地域の方との交流の機会につながることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方の集まる会に参加した際は折に触れ理解していただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ下のため会議が開催されていないが定期的に書面での報告をさせていただき状況の理解に努めている。	会議については書面による実施が続いているが、感染症問題の状況をみながら再開する意向でもある。また、会議を開催する際には、市担当部署の職員の参加が得られており、会議を通じて定期的な情報交換にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	定期的に窓口を訪問したり会議に参加し協力関係を結ぶように努めている。	市担当部署との関係については、運営推進会議以外にも毎月のホームの運営状況を報告しており、定期的な情報交換が行われている。また、運営法人全体でも交流が行われており、例年は「ゆう学会」の取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束がどのようなことを言うのか折に触れ話し合ったり研修には参加し理解を深めるようにしている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者がホーム内を自由に移動できるように日常的に開放的な空間がつけられている。また、身体拘束に関する定期的な確認や職員研修を実施も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	関係する研修への参加も含め虐待が見逃されないように職員で話し合い互いに注意しあうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	機会があれば研修に参加したり情報を共有するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は管理者が行っているがわかりやすく丁寧にと心がけ納得いくまで十分な説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設内に意見箱を設置するとともにこまめな声掛けに努め要望やご意見を聞き取れるようにしてミーティングで情報を共有するようにしている。	現状、家族との交流が困難になっているが、例年は、運営推進会議に多くの家族の参加が得られており、定期的な交流が行われている。ホームで毎月の金銭管理の報告が行われており、要望等の把握につなげている。また、毎月の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的なミーティングや個人面接を行い職員一人一人の意見を聞くようにしている。	定期的な職員会議の他にも、日常的にも職員間で情報交換を行いながら、職員からの意見等を管理者を通じてホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、年2回の管理者による職員面談が行われており、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的に人事考課を行い一人一人の目標設定や振り返りや仕事への考えを聞く機会を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年に一度は介護技術の振り返りや習熟度を確認している。研修にはなるべく受講できるように配慮し参加できない人にも復命してもらい情報を得られるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人の研修参加で交流を図るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	きめ細かく情報を得るように努め現状をしっかり把握しその情報を職員間で共有し本人や家族の要望を理解するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	こまめに家族には連絡を取り合い互いに理解できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	得られている情報から何を優先すべきか支援の在り方や方向性を考えて意見交換しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活歴や性格も含め家族からの情報も参考にこまめな声掛けと丁寧なかかわりで一方的な立場にならないようよい人間関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	こまめな情報提供に心がけ些細なことも折に触れお伝えし家族の要望も聞き取るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	来やすい雰囲気やここでくつろいでいただける環境づくりに努めている。	現状、外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には手紙等を通じて交流を継続しており、馴染みの方との関係継続にもつながっている。家族との外出については、現状は受診支援等の限られた範囲となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入ってお互いが気持ちよく過ごせるように利用者の相性や関係を見極めかわるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご要望があれば必要に応じ支援させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、以降の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	折に触れ思いや希望、要望を聞くように努め職員間での情報の共有もしている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者の意向等の把握につなげている。日常的に職員間で情報交換が行われていることもあり、定期的なカンファレンスも含めて、利用者や家族の意向等に日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居されるまでにかかわった方たちから情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々のかかわりやあらゆる場面から得られた情報を収集し職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当制になっているので担当者をはじめ計画作成者が中心になりミーティングで情報をしっかり把握したうえで現状に合った計画を立案し家族にも聞き取りをして確認している。	介護計画については、6か月を基本に見直ししており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、3か月毎に実施しているモニタリングには担当職員も協力しており、日常の記録や細かな変化等の把握につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	きめ細かく記録し情報の共有を徹底し漏れのないように努めている。定期的な見直しに活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人やご家族の状況に応じて柔軟に対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握し適切な支援が受けられるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	心身の状況から適切に必要な医療が受けられるように支援させていただいている。	運営母体が医療機関であることで、協力医による定期的な訪問診療や利用者の健康状態に合わせた受診支援等の対応が行われている。また、看護師が勤務している他、管理者も看護師でもあることで、協力医との連携や医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職が常駐しているので常に相談や支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者とは連携を密にしており情報交換がしっかりできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	定期的に見取りに関しての意向を確認し希望やここでできうることを丁寧に説明させていただいている。	身体状態が重い方も生活を継続できるように支援が行われており、利用者の中には母体の医療機関とも連携しながらホームでの看取り支援も行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、ホームで支援可能な内容の確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルをもとに対応が行えるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練や防災意識を持つことの大切さを折にふれ話し合っている。法人全体での取り組みを周知徹底するようにもしている。半田市での防災に関する会議にも参加している。	年2回の避難訓練が行われており、夜間を想定した訓練の実施や通報装置の確認が行われている。ホームの近隣に関連の老健があることで、非常災害時の連携にもつながっている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	今年度中にホームの隣に関連事業所（ふれあいハウス）が移転することになっている。災害に関する両事業所間での協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員が互いに気を付けながら注意しあい相手を思いやる言葉使いができるように努めている。	運営法人の基本理念及び「職員心得三カ条」を職員間で共有し、利用者への対応や言葉遣い等への意識向上につなげている。対応が困難な利用者に対する言葉遣い等を職員間で検討する時間をつくり、職員への注意喚起につなげる取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	こちらの一方的な押し付けにならないように根気よく本人の思いを聞き取るようにし自分の意志で決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	施設としての大まかな日課はあるがどのように過ごしたいのかはご本人の希望や体調に応じて聞き取り支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の意見を聞きながら個性が生きるように支援している(髪型や衣類の選択など)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員の見守りや支援も含め能力や状態を踏まえてできることを行っている。	食事については、おかず類は関連の老健の厨房から提供しているが、ご飯と汁物はホームで調理が行われており、食事形態の対応も行われている。また、利用者の希望に合わせた食事の提供やおやつ作り等が行われており、利用者もできることに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士のもとで献立はたてられているが一人一人の状態に応じて形態や量は考えて提供している。水分摂取も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後必ず口腔ケアは実施している。一人一人の能力や口腔の状態に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表をもとに一人一人の排泄パターンを把握し排泄が気持ちよく安全に行えるよう支援させていただいている。	利用者全員の排泄記録を残し、日常的に職員で情報交換の時間をつくりながら、一人ひとりに合わせた排泄支援に取り組んでいる。トイレでの排泄を基本に考え、排泄に関する医療面での支援も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便のチェックをしながら便秘にならないように支援させていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	身体の状態に合わせて個浴、ミスト浴を選択し入浴剤の工夫で入浴が楽しめるように支援している。	利用者が週2回の入浴ができるように支援が行われており、利用者の状況等にも合わせながら、午前と午後の時間に入浴する取り組みが行われている。また、浴室内にミスト浴ができる入浴設備が備えられてあり、身体状態の重い方の入浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	今までの生活ペースを踏まえて希望を確認しながら支援させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員が内服中の薬について把握し理解できるようにしたうえで服薬介助ができるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	折に触れご本人を取り巻く方から情報を得るようにし得られた情報を生かしての支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ下にあって思うような外出が行えないのが現状であるが落ち着いたら出かけたいという思いは職員で常に話している。	利用者の外出が困難な状況であるが、ホームの敷地内を散歩する等の支援が行われている。例年は、様々な外出行事を検討しながら利用者の外出の機会を確保している。今後については、感染症の状況もみながら外出行事等を考えていく方針でもある。	移転後のホームの場所には、近隣に関連の老健がある等、外出しやすい立地場所でもある。今後の状況をみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	何人かの方は自己管理をご家族の了解のもとに行っているが現時点では外出もままならない状況で金銭を使用する機会もないので多くの方は施設で預らせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望があれば自由に電話をしていただいたり書いていただいた手紙は送らせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	快適な温度湿度を常に意識した環境づくりを心掛けている。季節を感じていただけるレイアウトを利用者とともに作成している。	両ユニットが平面で開放されており、外出が困難な状況の中で利用者が歩行訓練等ができるような生活環境がつけられている。リビングや通路の壁面には、利用者の作品やデザインされた手ぬぐいを飾る等、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	互いの人間関係を確認しながら快適な距離が保てるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今までの生活を踏まえご家族の協力を得ながら使い慣れたものや愛着のあるものを持ち参していただき快適な居室になるよう支援させていただいている。	居室には、ベッドと衣類が入るチェストが備え付けとなっていることで、持ち込みの少ない方も生活ができるように対応している。利用者の中には、使い慣れた家具類や趣味の物等を持ち込んだり飾ったりしておら、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	何ができるのか、できそうなのか職員間で話し合いながら過剰介護にならないよう自立を念頭に支援させていただいている。		